



活躍する医科歯科人

卒業生の今

現場の歯科技工士を助ける 新製品を開発したい

株式会社トクヤマデンタル つくば研究所

豊田真奈氏

とよだ・まな

2018年、東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻卒業。3年生の時に海外研修奨励制度により、スウェーデン・ヨーテボリ大学歯科技工科に3週間留学。卒業後は歯科器材メーカーの株式会社トクヤマデンタルに入社。つくば研究所で製品開発業務を行っている。

歯学部口腔保健工学専攻を卒業後、歯科医療用器材メーカーに勤務する豊田真奈さん。「歯科技工士」という職業との出会いは、高校1年生の時に参加した、東京医科歯科大学のオープンキャンパスでした。

「口腔保健工学専攻のプログラムで模擬実習を体験し、ものづくりを通じて医療に貢献できる歯科技工士に興味をもちました。幼い頃から手作業で何かを作ることは好きで得意な方でしたので、自分が得意な分野と、多くの人の役に立つ医療が結びつく職業だと感じ、将来の目標として目指すようになりました」

現在は、研究開発部門の一員として、義歯関係の新製品の開発などに日々力を尽くしているそうです。歯科材料の開発には、義歯に関する知識、CAD/CAMの技術など、大学時代に学んだ多くのことが生かされている一方で、材料に関する化学などの幅広い知識も求められるため、化学を専門とする同僚と意見を交わしたり、専門書を読み込んだりしながら、新たな知識を積み重ねて実験に毎日向き合っています。

「試験片の作り方一つとっても、

最初はコツが分からず、苦勞することばかりでした。実験には失敗がつきものですが、その都度改善すべき点を見つけ、前向きに取り組んでいます。周囲から学ぶことは多いのですが、歯科技工士資格を持つ私の知識が必要とされる場面もあり、同僚と力を合わせて開発を進めていくことに、仕事の面白みを感じています」

豊田さんがメーカーの研究職の道に進んだのは、歯科技工士の働く環境を改善したいという強い思いがあったからです。

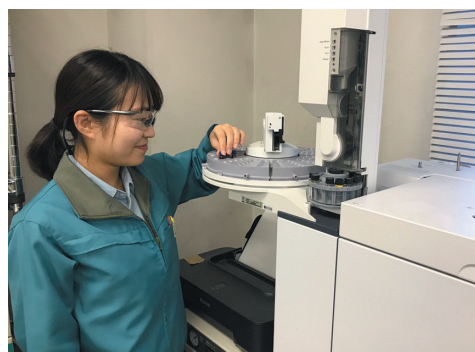
「学生時代から、歯科技工士の長時間労働や粉塵などによる健康被害は大きな課題だと感じていました。これまでにない新たな製品を開発することで、歯科技工士の作業の効率化や作業時間の短縮を図り、現場のみなさんの労働環境の改善に繋がりたい。そう考



株式会社トクヤマデンタル

歯科医療用器材の製造・販売、輸出入、器械・器具の修理などを事業内容とする歯科器材メーカー。1978年、徳山曹達株式会社（現・株式会社トクヤマ）と和田精密歯研株式会社とトワ技研株式会社を設立し、歯科医療用材料分野に進出。2001年にトクヤマデンタルとなった。同社製品は現在、ヨーロッパ、北米、アジア、オセアニアなど全世界70カ国以上で使用されている。国内拠点は、つくば研究所のほか、本社、全国6営業所、鹿島工場。従業員150名。

えて、この仕事を選びました。歯科医療全体の現状とニーズをしっかり把握し、より便利で使いやすい製品を開発していきたいと考えています」
携わった製品が上市され、歯科技工士だけでなく歯科医師、歯科衛生士の役に立つ日を目指して、一歩ずつ前進しています。



ガスクロマトグラフで開発中の材料の成分確認を行っています